

令和 7 年度実施分

出資法人等評価・カルテシート（令和 8 年度分）

商法法人以外

1 出資法人等の概要

団体名	一般財団法人豊中市医療保健センター		
所在地	豊中市上野坂 2 丁目 6 番 1 号	所管部局・課	健康医療部 保健安全課
設立年月日	昭和 49 年 3 月 27 日	代表者	理事長 藪床 和弘
資本金等	10,000,000 円	うち市出資額 (率)	5,000,000 円 (50.0%)
設立目的	豊中市医師会、豊中市歯科医師会、豊中市薬剤師会及び豊中市の連携に基づき、豊中市の地域医療体制を確立し、もって地域住民の健康の維持及び福祉の充実を図り、公益の増進に寄与することを目的とする。		

2 役員・職員関係

各年 4 月 1 日現在

		R6			R7			R8		
			市職員	市 OB		市職員	市 OB		市職員	市 OB
役員	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常勤	12	3	1	14	5	1	13	4	1
職員	常勤	9	0	0	9	0	0	9	0	0
	非常勤	82	0	0	78	0	0	78	0	0
役員の平均年間報酬（R7 年度、千円）※常勤のみ		*			職員の平均年間給与（R7 年度、千円）・平均年齢 ※常勤のみ			7,627 千円・44.4 歳		

3 財務関係

損益計算書		金額（千円）		
		R5	R6	R7
	総収入	532,782	496,740	637,372
	（うち市受入金）	330,688	303,692	462,159
	総費用	463,220	491,795	518,697
	経常損益	64,586	▲8,815	▲48,069
	当期損益	69,562	4,945	118,675

貸借対照表		金額（千円）		
		R5	R6	R7
	資産の部合計	907,897	922,826	1,036,748
	負債の部合計	418,051	428,034	423,282
	（うち有利子負債）	0	0	0
	純資産	489,847	494,792	613,467
	利益剰余金	486,847	491,792	610,467

4 市の財政的関与の状況

(単位：千円)

		R5	R6	R7	主な内容、算出根拠等
フ ロ ー	補助金	—	—	—	
	事業費	—	—	—	
	運営費	—	—	—	
	委託料	5,942	7,063	7,252	二重読影会事業他
	指定管理委託料	—	—	—	
	その他	324,746	296,629	454,907	市負担金（運営費負担金・固定資産取得負担金） （うち非常用発電設備の設置に伴う工事負担金 153,230 千円）
計		330,688	303,692	462,159	
ス ト ック	貸付金残高	250,000	250,000	225,000	
	債務保証残高	0	0	0	
	損失補償残高	0	0	0	
	出資金				
	その他	5,000	5,000	5,000	出捐金 5,000 千円のうち、1,500 千円が基本財産
	計	251,500	251,500	226,500	

5 経営の状況

(1) 出資法人等の主な事業

事業名	事業内容	活動指標	R5	R6	R7
休日等急病診療事業	休日等における豊中市内の初期救急医療機関として、内科・小児科・歯科の診療を行う。	受診者数	6,619 人	6,680 人	5,409 人
障害者歯科診療事業	心身に障害があり、一般の歯科医院での治療が困難な患者を対象に歯科診療を行う。	受診者数	1,533 人	1,419 人	1,394 人
在宅ねたきり者等訪問歯科診療事業	在宅でねたきりの状態にあり、歯科医院への通院が困難な患者を対象に、居宅に訪問して歯科診療を行う。	受診者数	217 人	214 人	197 人
福祉・保健施設訪問歯科診療事業	豊中市内の福祉・保健施設に入所しながら歯科診療を必要とする患者を対象に、訪問歯科診療を行う。	受診者数	971 人	1,001 人	—
障害者（児）健診等事業	豊中市内の障害福祉サービス事業所の利用者を対象に、事業所単位で健康診査等を実施する。	受診者数等	215 人	263 人	309 人
大阪国際空港メディカルクリニック事業	大阪国際空港内に診療所を開設し、空港内従業員、空港利用者及び地域住民等に診療、健康診断、予防接種等を実施する。	受診者数等	9,142 人	9,007 人	9,345 人
		一般診療	1,554 人	2,288 人	2,238 人
		予防接種等	2,964 人	2,203 人	2,454 人
		健康診断	413 人	271 人	366 人
		健康診断（委託分）	4,211 人	4,245 人	4,287 人

(2) 財務指標

指標	視点	内容	R5	R6	R7
市受入金比率 市受入金／経常収益×100	自立性	市への財政的依存度を表わします。一般的に数値が低いほど、財政的に自立性が高いといえます。	62.7%	62.9%	98.4%
人件費比率（％） 人件費／経常費用×100	効率性	数値が低いほど財務の弾力性が高いといえます。総支出における相談業務等のマンパワーが業務の中心となる団体については高くなる傾向にあります。	38.4%	37.8%	39.5%
管理費比率（％） 管理費／経常費用×100	効率性	コスト体質を表すもので、一般的に数値が低いほど効率が良いとされます。	19.4%	20.9%	21.6%
正味財産比率（％） 正味財産合計／（負債＋正味財産合計）×100	安全性	負債及び正味財産合計に対する正味財産合計の割合。自己資本の比率が高いほど資本構成が良く、経営の安全性が高いといえます。	54.0%	53.6%	59.2%
固定比率（％） 固定資産／正味財産合計×100	安全性	正味財産合計に対する固定資産の割合。固定資産を返済不要な正味財産合計でまかなわれているかを表します。100%未満であれば安全性が高いといえます。長期的な経営の安全性を示しています。	142.0%	135.2%	112.6%
流動比率（％） 流動資産／流動負債×100	安全性	1年以内に返済を要する負債に対する1年以内に資金化できる資産の割合。数値が高いほど支払い能力が高いといえます。100%を下回る場合は注意が必要です。	542.4%	516.6%	554.2%

(3) その他

ア 給与体系

区分	☐ 独自体系 ☒ 市の体系を準用 ☐ その他 ()
見直し予定	☐ 予定あり (年度予定) ☒ なし ☐ 済み (●年●月)

イ 情報公開

公開ツール	☒ ホームページ (URL : https://tmhc.or.jp) ☐ 広 報 紙 ☒ 事 務 所 備 え 付 け ☐ そ の 他 ()
公開内容	☒ 定款 ☐ 役員名簿 ☒ 事業計画 ☒ 事業報告 ☐ 経営計画 ☒ 財務諸表

ウ 指定管理者の状況

施設名	指定管理期間	備考

6 経営上の課題

●地域医療におけるセーフティネットの役割を担う体制の維持に必要な、安定した財源の維持 ●組織の自律的なマネジメントを維持するための次世代を担う人材の確保 ●実施事業の改廃及び新規事業の開拓など、新たな収益機会の確保

7 経営改革の取り組み（令和7年度）

項目	取り組み内容	今後の課題・方向性
経営改善への取り組み	【大阪国際空港メディカルクリニック】 経営改革実施プランの2年目として、新たな管理医師のもとでチーム力を高め、かかりつけ医機能を発揮した診療や、産業医と連携した二次健診の促進に努めました。 また、クリニックをより広く周知するため、LINE 公式アカウントの開設やホームページの刷新といった広報活動を積極的に進めました。事業面においては、海外渡航者用腸チフスワクチンの接種開始や、企業の採用前健診及び予防接種の新規受託など、サービスの充実に努めました。 さらに、尿分析器の導入や視力計の更新に加え、令和8年2月には電子カルテを導入し、業務効率化と診療精度の向上を図りました。	【大阪国際空港メディカルクリニック】 令和8年度は経営改革実施プランの中間年にあたるため、最優先課題である「経営の黒字化」に向けてこれまでの取り組みを評価・分析します。 事業別（診療・健診・予防接種など）の収支を可視化して多角的に分析し、全職員が経営意識を持って主体的に収益改善に取り組む組織体制を構築します。 さらに、今後の効果的なアプローチを幅広く検討して計画の見直し、早期の黒字化達成を確実なものとしします。
事業・業務の見直し	【休日等急病診療】 年末年始期の感染症流行に備えた診療体制強化事業として、薬剤師会と連携した薬局連携事業を実施したほか、キャッシュレス決済や順番待ちシステムの導入、東側診療エリアを活用した動線の見直し等を行い、受診にかかる待機時間の可視化と利便性向上に取り組みました。 加えて、診療所における待ち時間のさらなる短縮に向け、新年度からの稼働を目指してオンライン予約システムを整備しました。 また、令和8年度の電子カルテ導入に向けて、三師会が参画する機種選定委員会を設置し、専門的な知見に基づく機種選定を進めました。 このほか、市域全体の休日診療体制の将来像について豊中市と継続的な協議を重ね、今後の方向性やアクションプランを検討しました。 【訪問歯科診療】 患者の体調変化等による課題に対応しつつ、歯科医師会等との連携を通じて事業の認知度向上に取り組みました。 【健康教育センター】 健康講演会の内容充実に努め、子育て世代を対象とした「思春期」をテーマとする動画コンテンツの制作・配信を行うなど、幅広い年齢層へのアプローチを行いました。 また、健康相談においても、チラシに具体的な相談事例を掲載するなどの認知度向上に努めました。 【組織力強化】 「情報・システム管理チーム」内の電カル班を中心に運用課題や評価項目案の具体化を行うとともに、グループウェアを活用した電子決裁（ワークフロー）のベースモデルを作成してDXを推進しました。 また、ガバナンスの充実として、財務諸表作成における手入力作業から会計システムでの直接出力形式へ移行し、情報の信頼性確保	【休日等急病診療】 豊中市や三師会と協議しながら、本部診療所機能の強化を計画的に進めます。 また、令和8年9月からの電子カルテ及びセルフレジの導入を着実にを行うとともに、年末年始期間におけるオンライン診療の試行と通年での運用など、さらなる市民の受診環境向上に積極的に取り組みます。 【その他事業】 歯科医師会と連携し、より受診者ニーズに対応した歯科事業内容への見直しを行います。また、豊中市と連携した健康増進事業などの新規事業を検討し、市民のけんしん受診率の向上や健康寿命の延伸に貢献します。 【災害時対応】 災害時応急救護所設置を想定した非常用発電設備の整備を確実に完了させ、災害時における機能維持体制を整備します。 【施設管理】 施設の長寿命化に資するため、特定建築物定期調査（12条点検）を実施し、「施設カルテ」の整備を進め、具体的な修繕維持計画を策定します。とりわけ空調設備については更新期を迎えていることから、個別空調への切り替えに向けた基本設計を整理し、令和9年度からの更新に向けて、計画的な整備を進めます。

	に努めました。 人材育成面では、新たに策定した「事業内職業能力開発計画」に基づき、オンライン学習システム（e ラーニング）を活用した階層別研修などを実施しました。	
収益の確保	【大阪国際空港メディカルクリニック】 海外渡航者用腸チフスワクチンの接種開始や、企業の採用前健診及び予防接種の新規受託など、受診者の確保に努めました。 また、産業医業務の充実に取り組み、更なる収益確保を行いました。 さらに、かかりつけ医として役割を発揮するため、担当医による個別予約や超音波画像診断装置の積極的な活用を行いました。 【休日等急病診療】 キャッシュレス決済や順番待ちシステムの導入、東側診療エリアを活用した動線の見直し等により、受入体制の強化を行うことで、収益機会の確保に努めました。	【大阪国際空港メディカルクリニック】 オンライン予約システムの導入による集患策強化、予防接種及び健診事業費用の適正化を図ることで、収益の確保を目指します。 【休日等急病診療】 年末年始期間におけるオンライン診療の試行と通年での運用により、「来所なしで受診したい」という新たなニーズに対応するとともに、流行期における本部診療所の混雑・患者集中を緩和することで受診控えを抑制し、収益機会の最大化に努めます。

8 出資法人等の自己評価

評価の視点	評価	今後の取り組み方針
必要性 ・実施事業は、社会状況、環境変化や市民ニーズに適合しているか	診療所の各事業は、豊中市域における休日の初期救急医療機関として、また、一般の医療機関での歯科治療及び通院、健康診査の受診が困難な人のセーフティネットとして、より充実が求められる状況となっています。 休日等急病診療事業では、コロナ禍以降の検査需要の高まりも影響し、受診者の動向が感染症の流行状況に大きく左右されますが、患者数の増大を想定した待ち時間解消対策を講じるとともに、電子カルテ等の医療DXに取り組むことで、診療体制の最適化を進めています。 また、災害時における救護所開設に備え、非常用発電設備の設置工事に着手し、どんなときにも市民が安心して受診できる環境整備を進めています。 なお、これらの医療DXや環境整備に伴う一時的な市負担金の増大により、令和7年度の市受入金比率は上昇していますが、これらは市民の安全・安心のための投資と位置付けています。	市域全体の受診者の動向を踏まえ、持続可能な診療体制を構築するため、限られた医療資源を効果的に活用できる運営体制の整備を進めるとともに、診療機能の充実強化を図ります。 また、社会情勢や市民ニーズを的確にとらえ、豊中市や三師会と連携しながら事業内容の拡充を検討し、市民の健康の維持増進に寄与します。 非常用発電設備について、令和8年度中に整備を完了するとともに、救護所開設時に円滑な運営ができるよう、備蓄品の適切な管理と開設実地訓練を継続的に実施します。
効率性 ・人的・物的な経営資源は有効に活用しているか ・組織体制、人事給与水準は適正か	業務内容の精査を行い、適切な職員配置に努め、効率的かつ効果的な事業運営に取り組んでいます。 人事給与制度については、新たに策定した「事業内職業能力開発計画」に基づきeラーニングを活用した階層別研修を実施し、職務対応能力の向上に努めるとともに、物価上昇等に対応した給与水準の見直しを図りました。	引き続き、適正な人事給与と制度の取り組みを進めるとともに、受診動向や医療ニーズの変化を踏まえながら、電子カルテ化などの業務環境の変化に対応し、限られた人的資源を効果的に活用できる体制づくりを進めます。 併せて、新設する「組織改革検討チーム」を中心に、コメディカル職員の報酬体系の見直しや事務局内の効果的な運営体制の見直しを検討し、適正かつ健全な経営基盤の確立を目指します。
有効性 ・意図する成果に有効に結びついているか	設立の背景から、医師会、歯科医師会及び薬剤師会と有効に事業連携ができており、休日における初期救急医療機関としての役割はもとより、障害のある人、在宅でねたきり等の状態にある人の心身及び口腔の健康の維持及び向上に資する役割を果たしています。 さらに、三師会、市との連携により災害時における応急救護活動の拠点となることや新興感染症発生時における発熱外来等の機能を担うことで、地域のセーフティネットとしての役割を果たすことが想定され、ますます重要となっています。 一方で、本部診療所の施設については、建設後52年が経過しており、全館のLED化を完了しましたが、空調設備やエレベーターの更新を始め、長寿命化が課題となっています。	三師会、市との連携を一層強化し、地域医療の拠点の一つとして機能を高めてまいります。 障害者歯科診療や訪問歯科診療については、受診者数が減少傾向にあるため、より効果的な事業内容を歯科医師会と共に検討を進めます。 今後の各事業の効果的な運営を進めるため、ホームページを刷新し、利用者がいつでも手軽に必要な情報へアクセスできる環境を整えます。 施設の管理においては、東側診療所の有効活用を図りながら、設備等の修繕計画を策定し、長寿命化をめざします。

総合評価	施設内に三師会の事務所があり、それぞれの意思決定の拠点となっていることから、行政と地域医療の連携に大きな役割を果たしています。 事業実施については、自己の施設、独自のノウハウ及びネットワークを活かしてサービス水準の維持に努めていますが、休日急病診療所の医療従事者の確保が難しくなっていることに加え、施設老朽化や受診者数の減少傾向を踏まえ、今後の持続可能な診療体制の方向性について、豊中市と検討を進めながら、本部診療所において、増患時のサービス改善に取り組みました。 大阪国際空港メディカルクリニックの経営改善の取り組みについては、実施プラン2年目として積極的に取り組みましたが、黒字化に至っていません。	各事業の効果的な内容の検討を進めるとともに、新たな事業についても豊中市、三師会と連携を図りながら検討を進めます。 併せて、医療 DX 化や人員体制の再構築を検討し、安定的で効率的な運営体制の構築に努めます。 大阪国際空港メディカルクリニックについては、実施プラン中間年にあたるため、事業ごとの評価分析を行い、経営黒字化に転換できるよう、今後の取り組み内容の見直しを行います。
------	--	--

9 市による評価

評価の視点	評価内容	課題・方向性
団体の存在意義 (必要性) ・ 出資目的は薄れていないか ・ 市の施策の方向性に適合しているか	豊中市医療保健センターが担う休日等急病診療や障害者歯科診療、セーフティネットとしての役割は、市民の健康と安全を守る上で極めて重要であり、市の施策の方向性とも合致しています。電子カルテやオンライン予約システム等の導入など医療 DX の推進も実施しており、市民の利便性向上も進めています。 有事における応急救護所としての役割も非常用発電設備の整備により確実な運営体制をとっているものと認識し、その必要性を評価しています。	今後は、医療 DX の推進や施設機能の強化により、市民サービスの向上や災害時における応急救護所の円滑な運営につながるよう、効果検証や実地訓練を継続的に実施し、実効性を高めることが求められます。 また、大阪国際空港メディカルクリニックについては、経営改革実施プランに基づく取組みを着実に推進し、令和 10 年度の黒字化に向けて、経営基盤の強化と事業運営の充実を図られることを期待します。
団体の活動領域 (効率性・有効性) ・ 出資法人等を活用するメリットはあるか ・ 出資法人等にしかできないことか	市単独では確保が困難な医療従事者ネットワークや三師会との連携体制を活用することで、地域医療体制の維持に貢献しています。 特に年末年始における休日等急病診療については、薬剤師会との連携により、多くの医療機関が休診中の年末年始においても安定した診療体制を提供しました。	市と法人がそれぞれの役割を明確にしながらか連携を深め、休日等急病診療体制のあり方や災害時医療体制の強化について継続的に検討していく必要があります。 空港メディカルクリニックは他の事業と方向性が異なる面もありますが、事業統合の効果を最大限に発揮できるよう、医療資源の相互活用なども実施しながら、更なる新規事業の開拓に向けた検討も引き続き行っていただきたいと思います。
団体と市との関係性 (効率性・有効性) ・ 事業の成果が市の施策の推進にどれだけ貢献しているか ・ 市の関与は適切か	市と三師会の出資団体という特性上、市の施策が最優先となるものではありませんが、休日等急病診療、障害者（児）歯科診療事業など、公共性の高い事業を推進することにより地域住民の健康を守り、第 4 次豊中市総合計画における「安全に安心して暮らせるまちづくり」の推進に寄与していると考えます。	引き続き、第 4 次豊中市総合計画における「安全に安心して暮らせるまちづくり」に寄与できるように、三師会と連携しながら公共性の高い事業を実施するとともに、空港メディカルクリニックの更なる充実を図ることで、空港を活かしたまちづくりに貢献してもらいたいと考えています。
総合評価	人的確保の難しさをはじめ、地域医療を取り巻く環境が大きく変化する中においても、休日等急病診療をはじめとする各事業を安定的に維持するとともに、年末年始の感染症流行期への対応、医療 DX の推進、災害対応力の強化など、将来を見据えた取組みを着実に進めていることを評価します。 また、市、三師会及び関係機関との連携を基盤として、地域医療体制の維持・充実に取り組んでおり、市民の健康と安全を支える重要な役割を果たしているものと考えます。	市及び三師会との連携を一層深めながら、地域医療の課題解決の一助となることを期待するとともに、医療 DX のさらなる推進、医療資源の効果的な活用などにより持続可能な医療体制の確保に努めてもらいたいと思います。 また、空港メディカルクリニックについては、経営改革実施プランの着実な推進を進めてもらいたいと考えます。